

個人山行

六甲連山：六甲山

- ◆日程 2019年3月17日(日)
- ◆メンバー L：西山
- ◆天候 霧ときどきあられのち晴れ

兵庫県では親しまれている山であるが、標高 1000m に満たず (931m)、日本百名山ではなく (三百名山のひとつ)、ついでに「6」もつかない。加えて関東圏からでは登山口までがまず遠い。でも六甲全山縦走をやってみたかった。加藤文太郎氏の姿が頭の中にあった。2014年の12月に最初のトライ。夜行で姫路まで行き、朝の6時に歩き始めた。須磨アルプスの馬の背は楽しかった。陽の短い時期とはいえ最高峰までたどり着けず、16時過ぎに記念碑台で日没を迎え行動終了、ケーブルで夜景のきらめく神戸市街地に降り続きはお預けとなった。

4年越しで今回はその残り、東半分を踏破する計画。前日名古屋で仕事を終え移動し、日本三大古湯の有馬温泉にて前泊というお楽しみプランである (外湯入り放題の素泊まり宿にした)。

朝。予報のとおりしとしと雨、鉄分の多い「金の湯」で暖まる。チェックアウトに手間取り1時間遅れの出発。にぎり湯のような濃霧のなかをロープウェーが進んでいく。視界が全くなく不安がよぎる。稜線に着くと、風でガスが流れときおり青空がのぞく。エスケープルートは複数ある、行くことを決める。計画通り西の記念碑台へバスで移動しているとさらに時間が押してしまうので、前回からつながりが切れてしまうがそのまま東へ歩き始める。



終始ガスってはいたが、かなり丁寧に道標が立てられ、見落としさえしなければ迷いそうにない。最高峰はルートを少し北に外れている。そこでまんまと道迷いをやってしまう。山頂から南に戻るべきところ、そのまま進んでしまったのだ。かなり明瞭なけもの道で、5分ほど何も考えずおりにしてしまう。ふと周囲の鬱蒼とした雰囲気、ほかの登山者と全く出会わなくなったことになにかおかしい、、と感じて初めて地図を広げた。沢筋 (白石谷) に向かっている。引き返す。

そのうちにさらに天候が悪化。ぶぶあられのような丸くて小さい塊がざらざらと降ってくる。雨装備は万全にしていたものの、この状況で縦走到にこだわる必要はない、と感じ始める。大平山をパスして車道に逃げた。高度が下がり雲からは抜け出す。やがて天候が回復、周囲も明るくなってきて、登山道へ戻ることを考える。歩きやすい舗装路で距離を稼いだこともあり、今からでも予定より早く下山できる。やっぱり山の中を歩こう！足元は悪いが、雨上がりの土の匂いが気持ちを浮き立たせる。眼下に甲山 (かぶとやま) と貯水池がみえる。もう市街地だ。

なんとも冴えない山行ではあったが天候は仕方ない。出発が遅れたのはよくなかった。道迷いの原因は多々ある。天候が悪く周囲の地形を見ないで惰性で歩いていたこと、道標に頼り切りおかしいと感じるまで地図を見なかったこと、出すことをおっくうに感じていたこと。反省。

いつかもういちど、今度こそ一日での全山縦走に挑戦するのだ。 (記：西山)

CT：ロープウェー山上駅 11:25 - 最高峰 12:05 - 石の宝殿付近から車道へエスケープ 12:45 - 大谷乗越から登山道へ復帰 13:50 - 塩尾寺 14:30 - 宝塚駅 15:10